

第34回マリンボールカップ男子 Aゾーン決勝 7月28日(日)

鶴久保 M.B.C. (横須賀) 51 vs 61 大砂土ミニバスケットボールクラブ (埼玉)

- 1 Q 鶴久保のディフェンスはトライアングルツー、大砂土はハーフコートマンツーマンで始まる。立ち上がり両チームとも緊張からかシュートが決まらず、なかなか得点できない。最初に得点したのは鶴久保 #4 のフリースローで1点目を得る。
大砂土 #10 速攻、リバウンドシュートなどで加点。対する鶴久保も #7 ブロックショットなどで活躍するが 5対12で大砂土のリードで第1クォータ終了。
- 2 Q ディフェンスは両チーム第1クォータと同じでスタート。始まって直後、鶴久保#6がパスカットから速攻、レイアップシュートに持ち込むが、大砂土#8よく戻り楽にシュートさせない。そこに走りこんだ鶴久保#5 リバウンドシュートを決める。
鶴久保は#5の活躍で追い上げる、大砂土#7が2人のディフェンスを振り切りドライブイン、ファールを貰ってフリースロー2本決めるなど反撃するが徐々に点差を詰められる。3分33秒13対17、その後鶴久保#5が頑張るがシュートが決まらない。一方大砂土は#9のドライブ、#8のミドルシュート、#6のゴール下などで着々と加点。19対33と大砂土がリードを広げて第2クォータ終了。
- 3 Q 大砂土 2-1-2 ゾーン、鶴久保 ハーフコートマンツー、このクォータ鶴久保は長身の#5、#7、ガードの#4がそろいインサイドで得点する。大砂土は#7が#4からゴール下へのアシストパスで得点、#5が身長ミスマッチをつけて加点。25対37となる。ここで鶴久保#4がミドルシュートを2本決める。大砂土は#10が#5のディフェンスをかわしてゴール下で得点、お互いに長身選手がうまく得点に絡んでくる、結果このクォータ 36対42と鶴久保が追い上げる。
- 4 Q やっとベストメンバーとなった鶴久保ディフェンスはハーフコートマンツーマン、大砂土もハーフコートマンツーマン。鶴久保#4のドライブイン、#5、#7の長身コンビで攻めるが、ディフェンスの頑張りになかなかシュートが入らない。その後大砂土#7、#9のドライブインで得点すれば、鶴久保#5、#7がインサイドで頑張り 43対47と追い上げ、盛り上がる。しかし大砂土は#7ドライブインでシュートは落ちるがリバウンドで得点、鶴久保#4のドリブルを大佐土#4がスチールして速攻、大砂土連続得点となる。しかし鶴久保#7がオフェンスリバウンドを頑張り 45対51とする。残り 1分55秒この後、鶴久保#4、#5の活躍で 49対51 追いつくかと思われたが、ここから鶴久保のオールコートのプレッシャーディフェンスに落ち着いてパスを通し得点を重ねる大砂土。それに対しミスが続く得点できない鶴久保。残り 22秒でファール、大砂土#4フリースロー落ち着いて2本決め 49対59となる、最後に鶴久保#5が意地を見せてゴール下で得点するが、大砂土最後の得点#9がジャンプシュートを決めて 51対61 大砂土の勝利となる。